

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成30年6月29日

【四半期会計期間】 第40期第2四半期(自平成27年8月1日至平成27年10月31日)

【会社名】 東建コーポレーション株式会社

【英訳名】 TOKEN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼会長 左右田 稔

【本店の所在の場所】 名古屋市中区丸の内二丁目1番33号

【電話番号】 (052)232 - 8000(代表)

【事務連絡者氏名】 広報IR室 室長 尾崎 健太郎

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区丸の内二丁目1番33号

【電話番号】 (052)232 - 8000(代表)

【事務連絡者氏名】 広報IR室 室長 尾崎 健太郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の平成30年4月期決算の作業過程におきまして、営業職社員に支払われる報奨金に係る会計処理に一部誤謬があり、当社の過去の決算において、販売費及び一般管理費が過少に計上される等、報奨金の期間帰属に誤りが生じていることが判明致しました。当社では従来、報奨金の支給時期に費用を計上しておりましたが、監査法人との協議の結果、これを受注契約時に計上するべきものと判断致しました。当該誤謬には金額的な重要性が認められるため、過年度に公表した有価証券報告書等を訂正することと致しました。

この結果、第40期第2四半期の四半期連結財務諸表において、販売費及び一般管理費が257百万円、その他の流動資産が1,351百万円及びその他の流動負債が4,214百万円それぞれ増加し、法人税等調整額が52百万円減少したことにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が257百万円、四半期純利益が205百万円及び利益剰余金が2,863百万円それぞれ減少しております。また、第39期第2四半期の四半期連結財務諸表において、販売費及び一般管理費が129百万円増加し、法人税等調整額が45百万円減少したことにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が129百万円、四半期純利益が83百万円それぞれ減少しており、第39期の連結財務諸表において、その他流動資産が1,299百万円及びその他の流動負債が3,957百万円それぞれ増加し、利益剰余金が2,658百万円減少しております。

これらの訂正により、当社が平成27年12月14日に提出致しました第40期第2四半期（自平成27年8月1日至平成27年10月31日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

#### 第2 事業の状況

##### 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第4 経理の状況

### 2 監査証明について

#### 1 四半期連結財務諸表

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第39期 第2四半期 連結累計期間	第40期 第2四半期 連結累計期間	第39期
会計期間		自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日	自 平成27年5月1日 至 平成27年10月31日	自 平成26年5月1日 至 平成27年4月30日
売上高	(百万円)	125,198	135,146	265,340
経常利益	(百万円)	2,408	5,902	9,629
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,447	3,676	5,706
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,521	3,659	5,979
純資産額	(百万円)	51,513	58,366	55,944
総資産額	(百万円)	123,676	140,089	135,832
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	107.50	273.21	423.80
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	41.6	41.7	41.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	749	7,059	14,308
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	798	1,320	3,466
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,257	1,259	1,313
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	48,692	64,007	59,527

回次		第39期 第2四半期 連結会計期間	第40期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年8月1日 至 平成26年10月31日	自 平成27年8月1日 至 平成27年10月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	13.01	122.73

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 4 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境の改善がみられる等、緩やかな回復基調で推移しましたが、中国をはじめとする海外経済の下振れリスク等も存在しており、景気の先行きについては留意が必要な状況が続いております。

建設業界におきましては、住宅ローン減税の拡充や省エネ住宅ポイント制度の実施に加え、住宅取得資金に係る贈与税の非課税措置の拡充等、政府による各種施策により、新設住宅着工戸数は47万3千戸（前年同期比6.3%増）となり、持ち直しの傾向が続きました。一方、相続税の税制改正を背景に賃貸住宅建設に対する需要は底堅く、新設貸家着工戸数は19万8千戸（前年同期比10.5%増）となり、堅調に推移しております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高は1,351億4千6百万円（前年同期比7.9%増）となりました。利益面におきましては、営業利益56億6千万円（前年同期比154.9%増）、経常利益59億2百万円（前年同期比145.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益36億7千6百万円（前年同期比154.0%増）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### 建設事業

建設事業におきましては、前連結会計年度の受注高が増加したことにより、当第2四半期連結累計期間の完成工事高は前年同期と比較して増加しております。利益面におきましては、生産性の向上に加えて、商品の集約化を図り建築部材の集中購買を行う等、積極的にコストダウンに努めたことにより、完成工事総利益率には改善がみられました。この結果、建設事業における売上高は655億4千万円（前年同期比8.8%増）、営業利益は58億1千7百万円（前年同期比70.4%増）となりました。

また、当第2四半期累計期間の当社単体における総受注高につきましては、749億7百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

#### 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業におきましては、管理物件数の増加に伴うサブリース経営代行システム（一括借り上げ制度）による入居者様からの家賃収入及び管理料収入等の増加により、売上高は前年同期と比較して増加しております。また、賃貸建物の当第2四半期末の入居率は入居仲介促進のための各種施策に積極的に取り組んだことにより96.1%となり、高い入居率を維持しております。この結果、不動産賃貸事業における売上高は681億9千7百万円（前年同期比7.2%増）、営業利益は31億4千8百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

#### その他

総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業で構成されるその他の事業における売上高は14億9百万円（前年同期比2.5%増）、営業損失は9百万円（前年同期は営業利益5千6百万円）となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローにつきましては、「現金及び現金同等物の四半期末残高」は前連結会計年度末より44億7千9百万円増加して640億7百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローにおける主な収入は、「税金等調整前四半期純利益」59億2百万円（前年同期比145.0%増）、「未成工事受入金の増加額」13億8千5百万円（前年同期比41.3%減）であります。これにより、営業活動によるキャッシュ・フローは70億5千9百万円の収入（前年同期比841.7%増）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローにおける主な支出は、「有形固定資産の取得による支出」14億3百万円（前年同期比89.4%増）、「貸付による支出」2億2千6百万円（前年同期比35.4%増）であります。「貸付金の回収による収入」が4億4千1百万円（前年同期比9.0%増）あったものの、投資活動によるキャッシュ・フローは13億2千万円の支出（前年同期比65.3%増）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に「配当金の支払額」の支出によるものであり、12億5千9百万円の支出（前年同期比0.2%増）となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

#### (5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設及び除却等について、当第2四半期連結累計期間において重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	53,888,000
計	53,888,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年10月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年12月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,472,000	13,472,000	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数100株
計	13,472,000	13,472,000		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年8月1日～ 平成27年10月31日		13,472,000		4,800		16

## (6)【大株主の状況】

(平成27年10月31日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)東名商事	名古屋市中区丸の内2丁目1番33号	4,100,000	30.4
左右田 稔	名古屋市中区	1,546,400	11.4
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズ ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ) (常任代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	772,900	5.7
左右田 善猛	名古屋市中区	404,000	2.9
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	196,400	1.4
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジェイビーアールデイ アイエスジー エフイー - エイシー (常任代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	191,722	1.4
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	184,700	1.3
CBNY - GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク銀行(株))	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	182,290	1.3
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001 (常任代理人 (株)みずほ銀行 決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都中央区月島4丁目16-13)	148,727	1.1
メロン バンク トリーティー クライアント オムニバス (常任代理人 (株)みずほ銀行 決済営業部)	ONE BOSTON PLACE BOSTON, MA 02108 (東京都中央区月島4丁目16-13)	116,481	0.8
計	-	7,843,620	58.2

(注) 平成27年8月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、エフエムアール エルエルシー (FMR LLC) が平成27年8月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は、以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	米国 02210 マサチューセッツ州 ボストン、サマー・ストリート245	868,700	6.4

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成27年10月31日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 15,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,209,600	132,096	
単元未満株式	普通株式 246,600		
発行済株式総数	13,472,000		
総株主の議決権		132,096	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれておりま  
す。また、「議決権の数」欄にも、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個を含めております。  
2 「単元未満株式」の「株式数」欄には、自己保有株式44株が含まれております。

【自己株式等】

(平成27年10月31日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 東建コーポレーション 株式会社	名古屋市中区丸の内 二丁目1番33号	15,800		15,800	0.1
計		15,800		15,800	0.1

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成27年8月1日から平成27年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年5月1日から平成27年10月31日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	79,802	84,287
受取手形・完成工事未収入金等	5,596	3 4,573
未成工事支出金	771	1,101
その他のたな卸資産	1 1,117	1 1,153
その他	4,369	4,120
貸倒引当金	82	77
流動資産合計	91,575	95,158
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	10,722	11,771
土地	15,498	15,501
その他(純額)	4,874	4,615
有形固定資産合計	31,096	31,889
無形固定資産		
投資その他の資産	1,047	1,089
その他	12,479	12,235
貸倒引当金	366	283
投資その他の資産合計	12,113	11,951
固定資産合計	44,257	44,930
資産合計	135,832	140,089
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	23,845	3 24,271
未払法人税等	2,673	1,809
賞与引当金	1,567	1,561
役員賞与引当金	68	32
完成工事補償引当金	131	135
その他	27,226	29,455
流動負債合計	55,512	57,265
固定負債		
役員退職慰労引当金	645	631
退職給付に係る負債	2,066	2,156
長期預り保証金	17,954	17,796
その他	3,708	3,871
固定負債合計	24,374	24,456
負債合計	79,887	81,722

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,800	4,800
資本剰余金	16	16
利益剰余金	50,731	53,196
自己株式	57	84
株主資本合計	55,490	57,929
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	375	370
退職給付に係る調整累計額	73	61
その他の包括利益累計額合計	448	431
非支配株主持分	6	6
純資産合計	55,944	58,366
負債純資産合計	135,832	140,089

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)
売上高		
完成工事高	60,223	65,540
兼業事業売上高	64,974	69,606
売上高合計	125,198	135,146
売上原価		
完成工事原価	41,081	43,230
兼業事業売上原価	61,601	65,752
売上原価合計	102,682	108,983
売上総利益		
完成工事総利益	19,141	22,309
兼業事業総利益	3,373	3,854
売上総利益合計	22,515	26,163
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	10,999	11,199
賞与引当金繰入額	894	1,001
役員賞与引当金繰入額	31	32
退職給付費用	165	175
役員退職慰労引当金繰入額	33	15
貸倒引当金繰入額	16	-
その他	8,154	8,079
販売費及び一般管理費合計	20,294	20,502
営業利益	2,220	5,660
営業外収益		
受取利息	85	76
保険代理店収入	162	146
その他	85	78
営業外収益合計	333	300
営業外費用		
クレーム損害金	14	27
その他	131	31
営業外費用合計	145	58
経常利益	2,408	5,902
税金等調整前四半期純利益	2,408	5,902
法人税、住民税及び事業税	723	2,150
法人税等調整額	237	75
法人税等合計	961	2,226
四半期純利益	1,447	3,676
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,447	3,676

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)
四半期純利益	1,447	3,676
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	82	4
退職給付に係る調整額	8	11
その他の包括利益合計	74	16
四半期包括利益	1,521	3,659
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,521	3,659

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,408	5,902
減価償却費	715	684
貸倒引当金の増減額(は減少)	8	88
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	90	95
売上債権の増減額(は増加)	1,279	1,023
未成工事支出金の増減額(は増加)	245	329
仕入債務の増減額(は減少)	4,256	426
未成工事受入金の増減額(は減少)	2,358	1,385
未払金の増減額(は減少)	514	469
預り金の増減額(は減少)	1,886	605
未払消費税等の増減額(は減少)	48	403
長期預り保証金の増減額(は減少)	0	157
その他	410	543
小計	3,368	10,024
利息及び配当金の受取額	93	85
法人税等の支払額	2,712	3,050
営業活動によるキャッシュ・フロー	749	7,059
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付けによる支出	167	226
貸付金の回収による収入	404	441
有形固定資産の取得による支出	741	1,403
無形固定資産の取得による支出	171	167
差入保証金の差入による支出	71	78
差入保証金の回収による収入	6	31
その他	58	83
投資活動によるキャッシュ・フロー	798	1,320
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	1,210	1,211
その他	46	48
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,257	1,259
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,306	4,479
現金及び現金同等物の期首残高	49,999	59,527
現金及び現金同等物の四半期末残高	48,692	64,007

【注記事項】

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 その他のたな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
商品及び製品	418百万円	448百万円
仕掛品	86	129
材料貯蔵品	612	576

2 保証債務

施主の金融機関からの借入等に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
29名	66百万円	24名 62百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年10月31日)
受取手形	- 百万円	26百万円
支払手形	-	2,218

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年5月1日 至 平成27年10月31日)
現金及び預金勘定	68,960百万円	84,287百万円
預入期間が3ヵ月を超える 定期預金	20,268	20,280
現金及び現金同等物	48,692	64,007

(株主資本等関係)

1 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年5月1日 至 平成26年10月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年7月25日 定時株主総会	普通株式	1,212	90	平成26年4月30日	平成26年7月28日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の  
未日後となるもの

該当事項はありません。

2 当第2四半期連結累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成27年10月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年7月29日 定時株主総会	普通株式	1,211	90	平成27年4月30日	平成27年7月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の  
未日後となるもの

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第 2 四半期連結累計期間(自 平成26年 5 月 1 日 至 平成26年10月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	60,223	63,599	123,822	1,375	125,198		125,198
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	695	695	1,251	1,946	1,946	
計	60,223	64,294	124,518	2,626	127,145	1,946	125,198
セグメント利益	3,414	2,552	5,967	56	6,023	3,803	2,220

当第 2 四半期連結累計期間(自 平成27年 5 月 1 日 至 平成27年10月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	65,540	68,197	133,737	1,409	135,146		135,146
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	684	686	1,581	2,268	2,268	
計	65,542	68,881	134,424	2,991	137,415	2,268	135,146
セグメント利益又は損失( )	5,817	3,148	8,965	9	8,956	3,295	5,660

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業を含んでおります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益

(単位：百万円)

項目	前第 2 四半期連結累計期間	当第 2 四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	170	38
全社費用	3,632	3,256
合計	3,803	3,295

全社費用は、主に提出会社本社の総務管理部等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年5月1日 至平成26年10月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成27年10月31日)
1株当たり四半期純利益	107円50銭	273円21銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,447	3,676
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,447	3,676
普通株式の期中平均株式数(株)	13,465,824	13,457,211

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年6月27日

東建コーポレーション株式会社  
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 松井夏樹

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 城卓男

当監査法人は、金融商品取引法第193条の第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東建コーポレーション株式会社の平成27年5月1日から平成28年4月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年8月1日から平成27年10月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年5月1日から平成27年10月31日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東建コーポレーション株式会社及び連結子会社の平成27年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成27年12月11日に四半期レビュー報告書を提出した。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。